

チャレンジする Someone NEWS

～挑戦者の履歴書

第47回

連載最終回

連載

過現未を空気感としてチャレンジする

—SDGsのための新シリーズに向けて

一般社団法人 洗楓座 代表理事 佐藤建吉

はじめに

これまで2年間書き続けてきたこの連載コラムの終回として「まとめ」を書こうと、筆を進めていく。今日的には「キーボードを打って」いる。このように、時代とともに所作も変化し、そして言い回し表現も変わる。人間は、同じく生き物である地球を舞台に、相手にし、造作し、形を変え、その顔と表情のほかおそろく血流をも変えた。人間はHuman beingといひ、人間と人間以外の動物とは明確にこれまでは分けなかった。

SDGs

—チャレンジの対象

社会は個人をメンバーとして成立しており、それぞれが個性と能力を持っている。この連載で履歴書としてまとめているのは、その証であり、履歴書は新しい時代をつくるための同志を募るのに用いられる。その先にあるのは、人間と地球のための「SDGs」である。今回、47回の連載として紹介した方々は、それぞれが意志をもって「独自の生き方を為して」こられた。その履歴書を、ここではまず「過去」「現在」「未来」に区分して概要を述べてみたい。

過去からのいざない

3・11の原発事故を経験し、原発が、危険で高費用で多年の手抜きできない負担を残す(遺す)HKAアナウンサーで、その後には朗読家かつ軽井沢図書館長として活動してきた。日本語としての

母語の大切さで、朗読はその大切さを究めるものであると語った。軽井沢朗読館も開設し、谷川俊太郎父子はじめが来館し、詩や音楽の協奏を行っている。

⑤エバレット・ブラウンは、アメリカ人ではあるが、日本人のSAMURAIの魂をもつ。ネガとなる硝子板を自作し、世界で一枚だけの「湿式写真」として、日本の伝統を振り残す。その作品は、いま主流のデジタル写真とは全く異なる。ガイジンによる日本観察と気合を入れた作品づくりである。

⑥小野寺直氏は、歴史の中で日常を送っている。南朝一一代当主としての立場と責任をもつ。この意味には、満州国建国の背景とその後の国建の背景とを、筆者は、係わりもある。筆者は、同氏を一歴史は過去と現在の対話である」として、紹介した。

⑦佐藤彌右衛門氏は、喜多方の酒造の当主。3・11での福島県の惨劇を、会津でただ観ているわけにはいかない。原発事故の背景にある不条理を正すために会津電力を創設して、地元資源を地元で還元できるようにした。それは、「再生可能エネルギー革命」の端緒として称賛される。原発

の犠牲を排し「福島」を取り戻すことを為した。④菅建彦氏は、国鉄マシとして若い頃は本社勤務、また欧州勤務し世界の鉄道を回った。また鉄道文化について通底し、今年には鉄道開通150周年、講演もお願いした。今年、2022年12月に急逝した。

①田中道彦氏は、ニュートンの自然哲学の意味を数学や数式で、信州大学や学会で説き広めてきた。日本の和算にも通じ、日本の誇りも伝えている。②とみざわきらら氏は、漫画家&イラストレーター。北方領土をヒザなし交流で訪問&交流した。ロシア本国へも10回以上訪問している。

④沼波勇一氏は物故者ではあるが、筆者が同氏の遺志を継承する。地域の資源をエココミュニケーション活動として伝承&実践する記録を紹介した。

⑤ねじめ正一氏は、著名な小説家&詩人である。山形県酒田市の大火を、連載小説『風の棲む町』として発表された。朗読会で酒田を訪問し生きた出会いが執筆の動力。小説が地域の活力となった例でもある。

⑥マーティン・モリス氏は、英国人として、日本の伝統的建築物について建築史学として調査研究

して裁判所に問う。脱原発運動の戦士で、政府や大企業や大学や官庁など「原子力ムラ」と戦う。同志として300名の「脱原発弁護団全国連絡会」を結成。市民などに、事実を示し理解を得るため、脱原発の映画を製作。「世代間倫理」の概念は、未来志向の現世の倫理観である。

⑩剣持量人氏は、43歳のエンジニア。アメリカ留学をし、外資系の自動車部品会社に勤務。オンとオフの使い分け、時代性を追及している。⑩園浦眞佐子氏は、アートディレクター。後進のアーティストを江戸&東京の地域文化として育てる。アートにあふれた街を育てることが使命。

⑦河合弘之氏は、3・11の原発事故を経験し、日本人が現在に何をすべきかを弁護士&法律家として開いている。

⑧木村廣志氏は未来を刻んでいる。同氏は定年後の自身の隠れた才能を活かし社会に貢献している。チェーンソーカービングで愛らしいフクロウなどを見事に仕上げている。そしてその技を仲間へ伝えているが、師を超える人はそうはいない。適材適所の通りである。

⑨黒沼ユリ子氏も未来派である。同氏は、著名な世界的バイオリニスト。若くして才能を発揮し、プラハで師をも魅了した。メキシコ留学と結婚。メキシコ移住し文化を高めた。その後、帰国。メキシコと関係の深い千葉県御宿町に移住し活動している。

⑩黒沼ユリ子氏は、東大法学部卒のハイブリッド・パフォーマー。IT職に端を発したタレント占いで2万人超の人生相談も手掛け、表現と演出の重要性を認識し、芸道を実践している。歌唱や創作などにも挑戦している。

⑪吉岡しげ美氏は、詩をピアノ演奏と歌で表現する「音楽詩」のジャンルの構築し45年。国内外で公演している。筆者は茨木の子の行事で出演して頂いている。

⑫善竹二郎氏は狂言界の大御所であり重要無形文化財保持者。21世紀の現在、700年の歴史ある芸道である。目指すは、今日や明日ではない。180年後の23世紀を展望している。

⑬寺脇研氏は、文部官僚として生涯教育とゆとり教育の法制度の基礎とその普及に奔走した。「ゆとり」は未来づくりのメソッドであったと筆者は理解している。

⑭増田頼保氏は、画家であるがその創作魂は、風車にアートの付加価値を加え、独自のモノユメント風車を提供している。異業種交流の地域づくりに貢献している。

⑮宮林茂幸氏は、東京農業大学の元教授で、森林レクリエーションをライフワークとした。その現場は、群馬県川場村と山梨県小菅村。前者は利根川、後者は多摩川の源流で、自然から学ぶ源流大で、学生や都市の人々へのSDGsを教える。

⑯湯澤魁氏は、若者に累積が「未来」となる。福島県白河市において若来をつくるには、現状を把握し時には修正を加えて絶えず挑戦しなければならぬ。重複するが、現在はずっと過去になる。それは歴史ともいえる。そこで筆者が考えたことは、「未来史」という概念である。現在や過去において未来に向かうか、あるいは過去から未来へ向かうか、あるいは過去と未来の間をどう生きるか、という問いが、筆者が考えている。その問いは、始まりである。

⑰渡邊麗氏は、現代書道家。書道の道で、将来に古典となる作品づくりには、冒頭に述べたように人間と地球の持続可能性であり、それは国連の志向と合致している。その問いは、始まりである。88歳。なお元気に新技術の実践に向け開発しているシルバー・エンジニア&研究者。シルバークラウドに刺戟を与えている。筆者とともに、ブルネルスの氏名と概略紹介を索引ピリットを普及してきた同志でもある。

⑰古在豊樹氏は、千葉大学の学長や管理者を経験したが、本質的には一貫して研究者。その道は植物工場の必要性を確信し技術開発と食の確保に尽力。SDGsのテーマに合致している。

⑱七字祐介氏は、大成建設で高層商業施設設計開発などを行った建築家。都市を記憶する装置として未来に残す。

⑲中村一郎氏は三陸鉄道の3・11以降の2代目社長として、また山田線も併合した三鉄の新生に向けて、すなわち未来に向けて舵取りしている。

⑳善竹二郎氏は狂言界の大御所であり重要無形文化財保持者。21世紀の現在、700年の歴史ある芸道である。目指すは、今日や明日ではない。180年後の23世紀を展望している。

㉑寺脇研氏は、文部官僚として生涯教育とゆとり教育の法制度の基礎とその普及に奔走した。「ゆとり」は未来づくりのメソッドであったと筆者は理解している。

㉒増田頼保氏は、画家であるがその創作魂は、風車にアートの付加価値を加え、独自のモノユメント風車を提供している。異業種交流の地域づくりに貢献している。

㉓宮林茂幸氏は、東京農業大学の元教授で、森林レクリエーションをライフワークとした。その現場は、群馬県川場村と山梨県小菅村。前者は利根川、後者は多摩川の源流で、自然から学ぶ源流大で、学生や都市の人々へのSDGsを教える。

㉔湯澤魁氏は、若者に累積が「未来」となる。福島県白河市において若来をつくるには、現状を把握し時には修正を加えて絶えず挑戦しなければならぬ。重複するが、現在はずっと過去になる。それは歴史ともいえる。そこで筆者が考えたことは、「未来史」という概念である。現在や過去において未来に向かうか、あるいは過去から未来へ向かうか、あるいは過去と未来の間をどう生きるか、という問いが、筆者が考えている。その問いは、始まりである。

㉕渡邊麗氏は、現代書道家。書道の道で、将来に古典となる作品づくりには、冒頭に述べたように人間と地球の持続可能性であり、それは国連の志向と合致している。その問いは、始まりである。88歳。なお元気に新技術の実践に向け開発しているシルバー・エンジニア&研究者。シルバークラウドに刺戟を与えている。筆者とともに、ブルネルスの氏名と概略紹介を索引ピリットを普及してきた同志でもある。

㉖「過現未を空気感として「未来史」をつくる」

以上のように、3つの次元で括弧することは、ある読み手が以下である。そのURLは以下である。
http://www.kofuza.com/column/index.html

▼おわりに

まとめとして、この挑戦者の履歴書が意図するのは、冒頭に述べたように人間と地球の持続可能性であり、それは国連の志向と合致している。その問いは、始まりである。88歳。なお元気に新技術の実践に向け開発しているシルバー・エンジニア&研究者。シルバークラウドに刺戟を与えている。筆者とともに、ブルネルスの氏名と概略紹介を索引ピリットを普及してきた同志でもある。

なお、ここで上に掲げなかつた者についても含め、筆者の法人のHPからダウンロードして読むことができる。そのURLは以下である。

http://www.kofuza.com/column/index.html